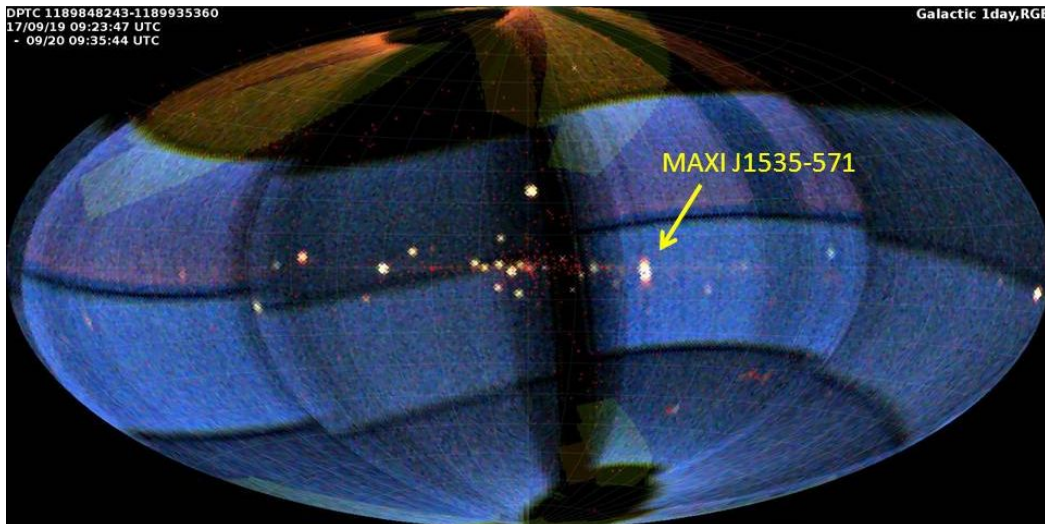




## MAXI観測史上最大のX線ブラックホール新星が出現！

2017年10月3日  
MAXI チーム  
(MM,SO,TM,MS)

- 全天X線監視装置MAXIは、9月2日23<sup>h</sup>55<sup>m</sup>(UT)に、南天のじょうぎ座にX線新星を発見し、**MAXI J1535-571**と名付けました(ATel #10699)。それを遡ること4時間前(20<sup>h</sup>00<sup>m</sup> UT)には米国のSwift衛星もこのX線新星を独立に発見し、ガンマ線バーストとして通報していました(GCN #21788)。遡って調べてみると、さらに5時間前(14<sup>h</sup>41<sup>m</sup> UT)には、MAXI新星発見 プログラムがこのX線新星を自動検出していました。
- MAXI J1535-571はその後も増光を続け、9月19日にはかに星雲の5倍の明るさに達し、MAXI が2009年に観測開始してから史上最大の明るさのX線新星となりました。



2017年9月19日のMAXI全天画像

- かに星雲の3倍以上の明るさになったX線新星は、実に1999年以来、18年ぶりでした。つまりMAXI J1535-571は、今世紀最大の、人類史上でも7番目に明るいブラックホールX線新星となりました。

理研 MAXIホームページ <http://maxi.riken.jp/news/jp/>  
" 英語ページ <http://maxi.riken.jp/news/en/>

# 正体はブラックホール連星だった！



- MAXI J1535は、発見の直後にSwift 衛星により赤経=15<sup>h</sup>35<sup>m</sup>19.73<sup>s</sup>, 赤緯= -57°13' 48.1" (2000年分点)(ATel #10700)と位置が決められました。その後ニュージーランドの口径61センチ望遠鏡で可視光(i'バンド)で21等級の星に同定されました。その後の諸観測から、このX線新星は**ブラックホールと低質量の恒星との連星系**だと分かりました(ATel #10708)。
- 9月19日以降、このX線新星は2-4keVエネルギー帯ではほぼ一定光度を保っています。最高光度に達するまで17日もかかった珍しいX線新星であることが分かりました。
- ブラックホール研究者は、現在運用中のチャンドラ、ニュースター、ナイサーなどのX線観測装置を使って、このX線新星の精密な観測を競って行っています。また、光・赤外線や電波でも詳細な観測がなされています。
- その中でも、国際宇宙ステーションに本年6月に搭載されたばかりのNASAのナイサー(NICER)X線観測器にとっては、共同観測を始めたMAXIからの思わぬプレゼントとなり、詳細な観測が進行中です(ATel #10768)。

